「①植野さん、いいもの見せてあげるよ、ちょっと……」
エミ子はさっきよりは、よほどはきはきした声でいって、チヅルのところまで飛んできて、手を引っぱるようにして物置小屋に連れていった。
くらい物置小屋には、雪かき用のスコップだの、ソリだの、カラのミカン箱だのがあって、ごちゃごちゃしていたが、奥のほうにダンボールが置いてあり、ひょいと覗いたチヅルは、あっと息をのんだ。
生まれたてとしか思えない真っ黒な子猫が、体をまるめて、ぴゅうぴゅうないているのだった。
ぶるぶる震えているのは、寒いのと不安がっているからみたいで、ダンボールに敷いたくしゃくしゃの黄色いセーターにしがみつくようにして、ふにふに、ないているのだった。
「これ、どうしたのさ」
チヅルは思わず声をひそめて、そっと手をのばして、抱きあげた。
ハンケチくらいの重さしかなくて、ちょっとでも力を入れると、ぺしゃっと潰れてしまいそうなほど、小さかった。
「すて猫なんだ。きのう、学校の帰りにみつけて、つれてきたの。だけど、ウチ、猫飼えないから。お父さん、動物きらいだからさ。かくれて、飼おうと思ってるんだ」
「かくれて？」
「だれにも、内緒だよ。植野さんだから、おしえたんだよ」
「うん。だれにもいわない」
チヅルは息をはずませながら、胸にしがみついている子猫をそうっと撫でた。子猫は急に動かされて不安なのか、精一杯のなき声をあげていて、みゃーと口をあけるたびに、ピンク色の歯ぐきと舌が、ちろりと見えるのだった。
いつのまにいなくなっていたのか、エミ子が息をきらして戻ってきて、みると、手にミルクの入った小皿をもっていた。
「植野さん、猫が牛乳のむとこ、見たいしょ。見なよ。すごく、のむんだよ」
顔を真っ赤にして、すっかり興奮したように肩で息をして、そういうのだった。
「②ちゃんと、あっためたかい。冷たいと、腹くだしになるよ」
「あ、そうなのかい？ 知らなかった！」
エミ子はいかにも嬉しそうにいって、ばたばたとすごい音をたてて、家のほうに戻っていった。興奮しているせいか、すごく元気がよいのだった。
(学校の木村さんと、ぜんぜんちがうなあ。もっと陰気な子かと思った)
猫を撫でながら、なんとなく見直す気持ちになってしまった。

（氷室冴子『いもうと物語』新潮社 による）

例題

――線部「家のほうに戻っていった」とあるが、何をするために戻ったのか。説明しなさい。

〔　　　　〕

場面・状況の読み取り

文学的文章は、時・場所・登場する人物が変わる箇所に注目し、場面に分けながら読むとよい。場面を捉えることで、物語の展開や登場人物の心情の変化が読み取りやすくなる。

・いつ（時代、季節、時期、時刻）
・どこで（登場人物がいる場所、出来事が起きる場所）
・だれが（どんな人物が登場しているか）
・どうした（何をして、何があって、結果どうなったか）

また、場面が変わったときは、まずはその場面の状況を理解することが大切である。

・「いつ」「どこで」の出来事が描かれているか。
・「だれが」その場面に登場し、人物の設定や人物どうしの関係はどう描かれているか。

※「　」内の文（会話文）とそれ以外の文（地の文）で、登場人物の呼び方が異なる場合があるので整理しながら読む。登場人物が多い場合は相関図などを作りながら読み進めるとよい。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「植野さん」と同じ人物を指す本文中の言葉を選びなさい。

ア チヅル　**イ** お父さん　**ウ** エミ子

〔　　〕

(2) ――線②「ちゃんと、あっためたかい。」は誰の発言か。適当な人物を選びなさい。

ア チヅル　**イ** エミ子　**ウ** 木村さん

〔　　〕

(3) 本文で描かれている状況として適当なものを選びなさい。

ア チヅルは本文で描かれた場面の前日に、すて猫をみつけた。
イ エミ子は、猫を飼うために父を説得しようとしている。
ウ チヅルは、エミ子の様子が学校とは全くちがうと感じた。

〔　　〕